

令和6年度 文京区地域精神保健福祉連絡協議会 要点記録

日時 令和6年8月23日（金）午前10時02分から午前11時55分まで

場所 障害者会館 会議室A・B（シビックセンター3階）

<会議次第>

1 開会

2 議事

(1) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築の取り組み【資料第1号】

(2) 各会議の実施報告【資料第2号】

(3) 普及啓発等の会議の取組状況【資料第3号】

(4) コア会議の実施報告【資料第4号】

(5) 意見交換

3 事務連絡

<外部委員>

出席者

石黒 雅浩委員、根上 由紀委員、澤田 欣吾委員、大高 靖史委員、守谷 直樹委員、
成塚 康之委員、平野 吉晃委員、山岸 恒子委員、石樵さゆり委員、皆巳 純恵委員、
平井 芙美委員、奥野 博章委員、松尾 裕子委員、菊池 景子委員、礪部 好雄委員、
浅水美代子委員、老 孝明委員

欠席者

藤原 直之委員

<区側委員>

出席者

矢内保健衛生部長、鈴木福祉部長、吉田教育推進部長（代理：熱田教育総務課長）

欠席者

なし

<幹事>

出席者

小島予防対策課長、金谷保健対策担当課長、大塚保健サービスセンター所長、
永尾障害福祉課長、渡部生活福祉課長、山岸教育指導課長

欠席者

なし

<事務局>

出席者

佐藤精神保健担当主査、柳瀬保健指導係長、堀内、三代、田中

<傍聴者>

1名

保健対策担当課長：皆様、お忙しい中、本日まで出席いただきましてありがとうございます。

本日、守谷会長に司会進行を務めていただく予定でございますが、まだいらっしゃらないので、守谷会長がいらっしゃるまで、代理として部長の矢内のほうで務めさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

ただいまより、令和6年度文京区地域精神保健福祉連絡協議会を開催いたします。

私は、保健対策担当課長をしております金谷と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、事務局より、本日の出席状況及び配付資料についてご説明いたします。

事務局：事務局の予防対策課精神保健担当の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。

まず、委員の出席の状況からご報告させていただきます。本日、ご欠席のご連絡をいただいておりますのが、文京医師会の藤原委員1名でございます。守谷委員と澤田委員については遅れているという形だと思いますので、お待ちいただければと思います。

配付資料につきましては、次第及び資料第1号から第6号までとなっております。次第にもご案内させていただいておりますが、第1号から第4号が議事資料、参考資料といたしまして、第5号協議会要綱及び第6号の委員名簿を配付しております。

また、資料第3号で紹介いたします普及啓発等のチラシ一式を配付しております。不足資

料がございましたらお持ちいたしますので、挙手をいただければと思います。

あと、ご発言に際しましては、マイクをお持ちしますのでご使用いただければと思います。
よろしくお願いいたします。

以上です。

保健対策担当課長：それでは、会議に先立ちまして、保健衛生部長、矢内よりご挨拶申し上げます。

保健衛生部長：皆さん、こんにちは。保健衛生部長の矢内でございます。

日頃より文京区の精神保健福祉医療施策にご協力とご理解を賜りまして、厚く御礼申し上げます。また、本日はご多用の中、また、このように残暑の厳しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。

この文京区地域精神保健福祉連絡協議会は、令和元年度からは、保健医療と福祉のそれぞれを起点とした基盤整備を統合する地域づくりの検討の場として位置づけておりまして、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて協議を行ってまいりました。

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に当たっては、まずは文京区における様々な課題について見える化を図っていくところです。委員の皆様と共通理解を持ち、その課題への取組についてしっかりと議論して、進めてまいりたいと考えております。

昨年度は、ピアサポート活動について、コア会議において様々ご検討をいただき、必要な取組の整理を行いました。現在はこれを踏まえて、プロジェクトチームで当事者の希望やニーズを知るためのイベントの開催に向けて、具体的な検討を行っております。本日は、これらの報告について、それぞれのお立場から様々貴重なご意見をいただければと思います。

また、ほかにも、地域基盤、支援体制の整備、個別支援の三つの軸に沿った検討の場として位置づけております三つの会議や、心のサポーター養成事業などの普及啓発に関する取組についても、ご報告をさせていただきます。

精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムについては、それぞれの関係機関、関係者が顔の見える関係をつくっていくことが、非常に重要でございます。本協議会を通じて、互いの連携を一層深めていくことを強く期待しているところでございます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

保健対策担当課長：令和6年度は、本協議会の委員につきまして、改選がございました。医師会や各団体様からご推薦いただきまして大変ありがとうございます。任期につきましては、委員の選定にちょっと時間を要してしまいまして、承諾書には令和6年4月とさせていただい

ておりますが、令和6年7月から令和8年3月末までの任期となっておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

委嘱状につきましては、誠に恐れ入りますが、時間の関係で机上に置かせていただいておりますので、何とぞご了承くださいますようお願いいたします。

委員改正に伴いまして、今日、協議会への出席が初めての方もいらっしゃいます。事務局から、これから資料を説明いたしますが、その資料説明後に、各委員の皆様からお一人お一人ご意見をいただきたいと考え、その資料についてのご意見をいただきたいと思います。

その際に、ご所属とお名前、簡単に自己紹介を行っていただきますよう、どうぞよろしくをお願いいたします。

あと、こちらの会長の選出ですが、本来であれば互選によるということで規定されておりますが、誠に勝手ながら、あらかじめ事務局のほうで守谷委員に会長をお願いしております。今回もお引き受けいただき、ありがとうございます。

それでは、守谷会長、一言よろしくをお願いいたします。

守谷会長：小石川医師会の守谷です。江戸川橋で精神科クリニックを行っております。

委員の任期が8年の3月末までと書いてあったので、そこまで体調を維持できるかどうか非常に悩んでいるんですけども、なるべく体調を整えて続けさせていただきます。

今日遅れたのは交通事情が悪かったんですけど、急いでやらさせていただきます。

この会を円滑にするためには皆様の協力が必要なので、よろしくお願いいたします。

保健対策担当課長：ご挨拶いただきまして、どうもありがとうございました。

それでは、早速ですが議題に入ってまいります。以降の進行につきましては、守谷会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

守谷会長：それではお手元の次第に沿って進めてまいります。

最初の議事1、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築の取り組みです。

事務局の方、よろしくお願いします。

保健対策担当課長：それでは、お手元の資料をご覧ください。区側の方、あと、幹事の方につきましては、事前にお送りしておりますフォルダのほうにアクセスいただいて、資料をご確認いただきますようお願いいたします。

それでは、本日の会議を実施するに当たりまして、文京区の精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築のこれまでの文京区の取組、こちらをご説明いたします。

お手元にございます資料第1号をご覧ください。

こちらは、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のイメージ図でございます。平成29年に、これからの精神保健医療福祉の在り方に関する検討会の報告書におきまして、精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが地域の一員として、安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、障害福祉、介護、住まい、社会参加、地域の助け合い、教育が包括的に確保された、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指すことを、新たな理念として明確にされたものでございます。

2 ページの表をご確認ください。

こちらは、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて、国として特に推進すべき事業というのが位置づけられておりますが、その事業内容の一覧でございます。文京区としても、これから説明いたしますが、この事業内容に位置づけを受けて取組を徐々に増やしていっているところでございます。

3 ページの表をご覧ください。

地精協、これまでのこちらの協議会の取組、あとは、これからの取組ということで記載しております。こちらは、「文の京」総合戦略ですとか、「文の京」ハートプラン障害者・児計画、「文の京」ハートフルプラン保健医療計画、こちらを踏まえつつ、本協議会を進めてきており、またこれからもこちらの計画を踏まえて進めていく必要というのがございます。

4 ページをご覧ください。

こちらは、国ですとか文京区の動向、あとは、これまでの「にも包括」構築に向けた取組でございます。まず、平成30年度でございます。こちらは、平成30年度の第5期の障害福祉計画では、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを構築するため、協議の場を設置するということが書かれておりまして、文京区におきましては、令和元年度より本協議会を協議の場として、医療の分野の委員を増やして再編しているといったところでございます。

令和2年度でございます。令和2年度につきましては、退院後支援事業について、こちら地域包括ケアシステム構築推進事業の一つとして、国から財政的な補助を開始するということになりまして、こちらの協議会におきましては、「にも包括」の構築に向けた協議の場の意義について、共通認識をつくることを目的に、勉強会というのを取組として行ったところでございます。

また、協議会の委員の方につきましては、こちら協議会の後日、支援をする、また受ける中で感じる文京区の地域特性と課題の共有のため、アンケートを実施したといったところでございます。

5 ページをご覧ください。

5 ページにあります表は、令和3年度 of 取組内容でございます。前年度に地域の特性と課題の共有のために行ったアンケートの中で、もう少し忌憚なく話せる機会をとの意見がございまして、令和3年度には、試験的にコア会議を発足させたところでございます。

普及啓発をテーマに意見交換を行ったその会議では、事業所等において、既に地域に密着した活動が活発に行われており、支援者間の連携が取れているということが分かったところでございます。

また一方で、若者に対する周知が不十分であるというご指摘をいただきまして、文京区の学生から全国に広げていけるような取組はないかという、できないかという検討が行われたところでございます。

これらを受けて、大学生を対象として自殺対策講演会を実施し、講演会の中でメンタルヘルス・ファーストエイドについて示すことで、副次的にメンタルヘルスのリテラシーを高めていくような取組を試行的に実施したところでございます。身近な友人などから悩みを打ち明けられて精神的な落ち込みなどを抱えている人に対して、専門家でなくてもできることがあるということを知ってもらう機会としての最初の取組でございました。

また令和3年度につきましては、既存の会議体と「にも包括」の協議の場である地域精神保健福祉連絡協議会との位置づけの整理を行ったところでございます。

6 ページをご覧ください。

こちらの表は、令和3年度に整理を行いました協議会の場の機能、こちらと、協議内容の構造といった形でございます。会議体としての協議の場につきましては、保健・医療から地域を考える視点と、障害福祉から地域を考える視点の両視点を持った上で、地域基盤の整備、支援体制の整備、個別支援の検討の三つの軸に沿って、様々な機能を発揮することが求められており、それぞれの軸に沿って検討できるよう、地域移行支援検討会議、精神障害者支援機関実務者連絡会、地域生活安定化会議の目的や役割を整理したところでございます。

協議の場の構築における基本的な視点といたしまして、個別ケースの検討が土台となりますことから、会議体において個別ケースの検討等を通じて意見の集約を行い、地域ビジョン、地域のあるべき姿の検討と具体的な取組内容及び数値目標の設定に向けて協議を行うとともに、優先度を決めて実施可能なものから協議、実施を進め、それらの取組状況を報告し、包括的協議を行う場として、地域精神保健福祉連絡協議会が整備されたところでございます。

7 ページの表は、令和4年度の取組でございます。こちらのコア会議ではピアサポートに

についての整理と他区の活動例を、江戸川区相談支援センターの方より報告していただきまして、参加者の方から自分たちの身近でどのようなピアサポート活動が行われているかを共有した上で、今後どのようなピアサポート活動を進めていくことがよいかということを意見交換いたしました。

活動案では、支援者や当事者がピアサポート活動について学ぶ場をつくる、文京区の事業所や当事者を対象とした研修会を企画する、ピアサポート活動を行いたいと思ったときの相談先、ピアサポート活動に対する潜在的なニーズを把握するなどの意見が出まして、こちら結論といたしましては、現在行っているピア活動を強化する、また新たなピア活動を創出するための豆まきをする、それぞれの立場でできることを考えるなどの意見となりました。

また、協議会でいただいた普及啓発は、継続して行っていく必要があるといった意見を基に、「文京区からメンタルヘルスの理解を全国に広げていく」をテーマに、大学生を対象として心のサポーター養成研修を実施いたしました。一般向け、専門職向けにも実施し、計5回行いました。

8ページの表は、令和5年度の取組となっております。前年度はそういったコア会議での提案を受けまして、実務者連絡会の中で「今、知っておきたいピアサポーターのこと」をテーマとして講演会を開催し、支援者がピアサポート活動について学ぶ場を設けました。コア会議では、江戸川区のピアサポート活動の動画を視聴し、文京区としてどのようなピアサポート活動を進めていくか、意見交換を行いました。

ピアスタッフや事業所へ経済的な支援を行うことで、ピア活動を促進することができないかといった意見や、事業者同士がつながり、文京区全体でピア活動ができたらいいいといった意見、当事者同士が集まり、経験を語り合う機会があるといいといった意見ですとか、趣味やお楽しみ会を組み合わせさせてピアがつながり、当事者のニーズを知る場にできたらいいいなどの様々なご意見をいただいたところでございます。これらの意見を基に、具体的なピア活動を検討するため、ピア活動プロジェクトチームというのを発足することになりました。

以上で、文京区の子精神障害にも対応した地域包括ケアシステムのこれまでの構築の取り組みについて振り返りとさせていただきます。

守谷会長：ありがとうございました。

次に、議事2は、各会議の実施報告です。事務局の方、続いてお願いします。

事務局：事務局より、各会議の報告について説明させていただきます。資料第2号をご参照ください。

「にも包括」の協議の場の構築に向けて、令和3年度に三つの既存の会議体の位置づけを整理いたしました。具体的には、最初の図のとおり、地域移行支援検討会議を地域基盤の整備の軸、実務者連絡会を支援体制の整備の軸、地域生活安定化会議を個別支援検討の軸と位置づけて、それぞれの会議体において、保健・医療・福祉を起点として、テーマに沿った検討を行っているところです。

次のページ以降は、それぞれの会議体で今年度行っている検討の概略になりますので、資料に沿って説明させていただきます。

3ページのスライドです。

文京区地域移行支援検討会議です。第1に、地域基盤の整備の軸として位置づけました、地域移行支援検討会議の報告をさせていただきます。この会議では、長期入院者の地域生活への移行を促進するため、文京区の基盤整備のための取組の検討を年4回行っています。

主な内容としましては、地域移行支援を利用している対象者の報告や、基盤整備量の検討に向けて、長期入院後に退院した方の状況を検討、意見交換、また、長期入院施設を対象とした調査の検討・協議をしております。

4ページのスライドです。

1、地域移行支援を利用している対象者の報告です。前年度の給付実績は1名で、退院先はグループホームでした。

2、長期入院後に退院した人の状況を検討、意見交換では、実際に長期入院後に退院した人の状況をまとめ、足りない資源や、逆に退院を促進した資源や要素を協議しています。

今年度、第1回、第2回会議の個別ケース検討で出た意見です。退院の促進要因としては、他者への拒否が強い方でしたが、症状が安定したことで支援者への拒否感が消えて、継続的な関わりの中で関係性が構築されたことから、地域移行給付を利用せずに、既存の支援チームで地域移行が実施できました。

また、自立生活援助の事業所は、区内にはありませんが、代替として、区独自事業の安定化や、計画相談の一般相談、障害福祉サービスの移動支援を利用することで、退院後の安定した生活につながっています。

5ページのスライドです。

一方で、退院の阻害要因としては、本人の病状が不安定であることや、複雑な家族関係、支援者が不在、病院が遠方である、本人の状態像の変化等が挙げられました。これらにより、退院支援が進まずに入院の長期化につながっていることが考えられました。地域から病院に

出向いていく機会を大切に、長期入院を防ぐために、タイミングを適切に捉えていく必要があります、その一つの機会が、令和4年度から実施中の長期入院者の量的・質的調査です。

6ページのスライドです。

3長期入院施設を対象とした調査の検討は、スライドにお示しのとおりです。

7ページのスライドに移ります。

こちらは、事例検討の意見です。50歳代の男性、統合失調症の方の事例検討では、遠方の病院のため、病院に出向くのも大変であり、動機づけ支援を担う機関が少ないため、病院の近くの資源を有効的に活用できたらよいのではないかという意見や、長期入院者へ地域の情報が入りづらいので、ピアの関わりなども通して情報が入っていくとよいという意見がありました。

ほかに、70歳代の男性のアルコール依存症の方の事例検討でも、病院の立地上遠方で、動くのが難しく、連携の取りづらさが挙げられました。

さらに、アルコールのスリップを繰り返していることから、病識獲得の難しさがあることや、本人と家族の退院意向が乖離していることも課題であるため、関係者が一堂に会して状況を共有した上で、支援体制の構築をする必要がある、との意見が出ました。

医療機関連携を引き続き強化していく必要があるといった意見を受け、連携を進めるに当たり、今年度中に他区の病院と地域の連絡会を視察予定です。今後も引き続き量的調査から質的調査を深めて、本調査を単なる調査で終わらせずに病院との関係性を構築する足がかりにして、課題や解決策案を整理し、地域基盤の整備につなげていきたいと考えております。

以上です。

事務局：8ページをご覧ください。

文京区精神障害者支援機関実務者連絡会についてです。この会の目的は、顔の見える連携体制をつくること、また実務者クラスの協議の場として、現場の課題やアイデアの提案を行うこと、そして、当事者の意見の吸い上げを行うことです。「にも包括」の構築の中では、支援体制の整備の軸になります。今年度は3回実施予定です。

第1回は、9月6日「知られざる薬剤師さんの仕事」と題して、文京区薬剤師会の理事であり、本会議の委員でもある成塚さんにお越しいたします。

第2回は、文京区で4か所設置されている地域生活支援拠点を紹介しながら、各機関の連携を図る内容で、11月に実施します。

第3回は、障害分野と介護分野から講師にお越しいたさき、協働について検討していく予

定です。

事務局：文京区地域生活安定化会議についてご報告いたします。

本事業は、精神科未治療者や治療中断の可能性が高い方、通常の障害福祉サービスの利用につながらない方等を対象として、自宅への訪問や受診同行を行う事業です。こちらの会議体は「にも包括」構築に当たり、個別支援検討の軸に位置付けています。

今年度から年4回の会議全てに精神科医にご出席いただき、事業を担う地域活動支援センターをはじめとした支援者が、医療的側面から助言を受けられる体制を整備しました。困難事例を取り扱う事業に関わる関係者の支援につながることを目的とし、継続した支援体制の充実を図っています。⑤関係機関の人材育成及び支援者支援として位置付けております。

事例検討について、報告いたします。強固なこだわりや認知にゆがみがあるケースへの対応について、保健、福祉、医療それぞれの視点から検討しています。その中で、本人の強みを生かし、現実に関わる方法に本人の興味を向けるような関わりを行う。感情コントロールなど本人の困りごとと結びつけた自己理解を深めるためのアプローチを検討する。東京法務少年支援センターの活用の提案などがありました。

この検討を通して、支援を行う上で、受診や服薬だけでは解決しない難しい課題があることを、会議体の中で共有しました。他者との関係構築の難しさ故に、事業対象者との関わり方の難しさを再認識し、特定の支援者の負担が大きくなることが明らかになりました。一方で、この事業があることで、地域生活を続けられる方がいることを実感いたしました。

次に、事業終了者の事例を報告します。今年度4月から障害福祉サービスの報酬改訂があり、計画相談員による通院同行に加算がつくようになりました。そこで、安定化事業の終わり方の一つの選択肢として、計画相談員の通院同行へ切り替えを行った事例を共有しました。

本人なりの受診スタイルの確立や家族支援、緩やかなつながりの維持が、安定化事業の利用終了にあたり、重要であったのではないかという意見が出ました。

一方で、障害福祉サービスの利用を終えると、計画相談員の関わりも終わること、全ての計画相談員が通院同行に対応できる体制にはないことが課題としてあります。そのため、難しい事例について、引き続き本事業での支援が必要であると考えております。

各会議の報告は以上です。

守谷会長：どうもありがとうございました。今の報告について何かご質問がありましたら、ご発言をお願いいたします。

特にないようなので、次の議事3、普及啓発等の取組の状況について、事務局の方、よろ

しくをお願いします。

事務局：では、資料第3号をご覧ください。

普及啓発の取組について、報告させていただきます。

まず、心のサポーター養成講座です。厚生労働省では、令和3年度から、心のサポーター養成事業を展開し、モデル地域に対して養成研修を行っております。文京区も手を挙げまして、令和4年度から養成研修を行っております。

3ページに移ります。

心のサポーター養成研修は、心理的危機に陥った方に対して、専門家の支援が提供される前にどのような支援を提供し、どのように行動すべきか、という対応方法を身に付けるプログラムです。メンタルヘルス・ファーストエイドの考えに基づいて実施されております。

4ページをご覧ください。

「心のサポーター」は、子供からお年寄りまで、全ての人を対象として、正しい知識に基づき、身近な人に対して傾聴を中心とした支援を行うとされており、2033年度までに日本全国で100万人の心のサポーター養成を目指しております。

5ページです。

今年度の予定になります。今年度はモデル事業ではなくなったために、区で実施をする予定であります。オンライン1回と対面で2回の開催予定でありまして、定員は合計で110名としております。今年度もメンタルヘルスや精神障害に関する正しい知識を普及し、偏見や差別のない、誰もが安心して生活できる地域づくりを目指し、普及活動を推進していきます。

6ページです。

次に、高次脳機能障害の講演会、相談会です。高次脳機能障害者の支援の充実を図るため、高次脳機能障害について広く区民に正しい知識と理解の促進を図る普及啓発事業として、高次脳機能障害講演会年1回と、個別相談会を年2回実施しております。今年度は、就労をキーワードとして、「高次脳機能障害のリハビリテーション～地域で緩やかに就労を目指すには～」をテーマに、9月に講演会を実施予定となっております。

7ページです。

文京区では、平成18年に施行されました自殺対策基本法に基づき、文京区自殺対策計画（令和元年度から令和5年度）を策定し、誰もが安心して暮らせる文京区を目指して対策を推進してまいりました。

対策を進める中で、区の自殺者数は減少傾向となっておりますが、近年の新型コロナウ

イルス感染拡大の社会への影響等、自殺の要因となり得る様々な問題が発生したことから、区の自殺者数は再び増加し、現在の社会状況を踏まえたさらなる対策を進めていくための計画改定を行うことといたしました。

本計画では、自殺対策の基盤となる区民への自殺対策の啓発と周知、自殺対策を支える人材の育成、自殺を防ぐための関係機関、地域ネットワークの強化、悩みを抱える人への支援の4点を施策の柱として、誰もが安心して暮らせる文京区を目指していきます。

本計画の期間は、令和6年度から令和10年度の5年間となっております。なお、本計画につきましてはホームページに記載しておりますので、詳細についてはホームページ等をご覧くださいと思います。

続きまして、8ページをご覧ください。

こころといのちの相談窓口リーフレットについてです。お手元にも、窓口リーフレットをお配りしておりますので、併せてご覧いただければと思います。こちらは自殺予防の相談窓口の一覧を知ることにより、こころといのちの相談窓口につながるができる環境を整備するために作成しております。区内の関係機関に配布をしております。

9ページをご覧ください。

自殺予防週間・月間の街頭キャンペーンについてです。

日本では、自殺対策基本法に基づき、毎年9月10日から16日を「自殺予防週間」、毎年3月を「自殺強化月間」と定めまして、国、地方公共団体、関係団体が連携をして「いのちを支える自殺対策」という理念を前面に打ち出した啓発活動を推進しております。文京区では、この機会に合わせて東京都と連携し、後樂園駅前周辺で街頭キャンペーンを行っております。今年度は、普及啓発品で作成いたしました付箋ですとか、チラシを街頭キャンペーンで配布する予定にしております。お手元にも付箋を配布しておりますので、よろしければご活用ください。

10ページです。

次に、ゲートキーパー養成講座になります。自殺対策や精神保健に関する正しい知識の普及啓発並びに自殺につながりやすい人の早期発見、早期介入に向けた取組の一環である、ゲートキーパー養成講座を実施しております。

文京区の自殺対策計画の改定に伴いまして、本年度より区民向けは基礎、応用、各1回の計2回、職員向けにつきましては、初級、中級、上級の各1回の計3回を養成講座の拡充しております。自殺に対する認識と知識を高め、全庁で連携、支援のできる体制づくりの構築

を目指すことを目的として、区職員を対象に実施をしております。

11ページです。

次に、インターネットゲートキーパー事業になります。オンデマンドによるゲートキーパー養成研修をYouTubeで無料公開しており、ホームページに載せております。またICTを活用した自殺対策事業につきましては、インターネット上の検索サイトで、文京区内エリアで自殺や希死念慮等を伺わせる自殺関連ワードを検索した方に対して、相談窓口を紹介する広告を表示し、多くの悩みを持つ方を区の相談窓口につなげ、自殺方法の情報取得を遠ざけるといような形で実施をさせていただいております。

また、ワンクリックでメール相談に誘導しまして、現実の相談につなげるというような形で、自殺対策防止の事業を行っております。

最後に、12ページ、自殺対策講演会になります。

地域における自殺対策の総合的な推進を図ることを目的としまして、自殺対策ですとか、精神保健に対する正しい知識の普及啓発の取組として、年1回実施をしております。区の自殺の現状を踏まえまして、本年度につきましては、20歳から50歳代の層をターゲットとしまして、「森川すいめい先生が教えるSNS世代の生きやすさのヒント～心が楽になる5つの方法～」をテーマに、10月に講演会を実施予定としております。

以上が、普及啓発の取組状況になります。

守谷会長：どうもありがとうございました。

今の議事3について、何かご質問がありましたら発言をお願いします。

ないようなので、次の議事4、コア会議の実施報告について、よろしくお願いします。

事務局：では、資料第4号をご覧ください。本年度行われましたコア会議について報告させていただきます。

本年度は、8月1日、2日の2日間にわたって、委員の皆様にはご都合がつく日に参加していただく形で実施しました。

目的としては、「ピアサポーター」の可能性を知る、区内の多彩なピア活動とその価値を知る、区のピア活動の推進を考えることを目的として実施いたしました。

コア会議の内容については記載のとおり、順番にお伝えいたします。

2ページをご覧ください。

最初に、「にも包括」と「地域づくり」について、東京都の地域移行促進事業担当者とピアサポーター活用アドバイザーからお話をいただきました。ピアサポートを通じて、地域移

行、地域定着支援を行うことで、地域住民の理解・啓発を進め、住みやすい地域づくりを行うことが「にも包括」＝「地域共生社会づくり」につながるということを踏まえた上で、お話を進めました。

3 ページをご覧ください。

区内のピア活動の紹介では、「ピア」とついていなくても、既に事業所ごとに行っているピア活動があるということを、共有しました。

その中で、各事業所で行われているピア活動の取組について、所属に関係なくつながり、知る機会を持てるとよいのではないか、という話になりました。

4 ページをご覧ください。

コア会議で、委員の皆様と意見交換をした内容を記載しています。「ピア活動が多彩にあるということを知り、学びになった」「ピアサポートを登録制にして派遣する仕組みがあるとよいのではないか」「ピアに興味がある人を把握できるとよいのではないか」「支援者へのピアの情報共有も必要ではないか」というような意見が出ました。

5 ページをご覧ください。

ピアには、いろいろな方がいるため、話さなくても、見ているだけで参加できるようなハードルの下げ方があることや、当事者だけでなく、家族、関係機関を招いての交流がよかったという意見がありました。また、予算をつけて、ピアサポーター育成事業を行っている区では、小学生へも普及啓発活動を行っているというお話がありました。

6 ページをご覧ください。

ピア活動の広報をすることで、潜在的なピアを引き上げられるのではないか、ピア活動につながるまであと一歩のところにいる方にどんな支援ができるか、当事者のリカバリーストーリーを発表を、DVDや冊子にして、入院している方にも届けられないか、という意見が出ました。

7 ページをご覧ください。

ピアサポーターにしかできないことが多くあり、暮らしやすい地域にするためには、ピアの力が大切である。また、ピア活動を行っている方から、障害当事者の発言権がないと感じるため、ピア活動を通して発言権を持っていきたい、という意見がありました。

8 ページをご覧ください。

いろいろな立場の方が、それぞれ活躍できる場が選べるとよい、ピア活動を考えるきっかけづくりや、ピアと対話・交流できる場があるとよい、という意見が出ました。

9 ページをご覧ください。

出張ピアサポートをすることで、人への優しさや周囲を元気づけるなどのいい循環がみられたという意見と、ピア活動に当たり、報酬があるといいというお話もありました。

以上、コア会議の中で、委員の皆様から幅広いご意見をいただきました。

10ページの資料をご覧ください。

コア会議でいただいた意見を踏まえて、今後の文京区の実組として、集える場やピア活動の土壌を醸成しつつ、ピア活動が広がり、深まる工夫を行うことで、ピア活動と地域づくりの連動を目指していきたいと考えています。今年度は、所属に関わらず、区内のピア活動を知る機会として、また、ピア活動に対する当事者のニーズを確認する機会として、ピア活動を周知する場を、当事者の方と一緒に企画していく予定です。

具体的な内容については、ピアプロジェクトチームで話し合うことを予定しています。

コア会議での意見を受けて、委員の皆様がご自身の立場から感じたこと、考えたことなどを、次の意見交換の際にお話しいただけますと幸いです。

以上、コア会議の報告でした。

守谷会長：ありがとうございます。私も、8月2日のコア会議に出て、以前よりかなり積極的な意見が出て、すごいなという感じを受けたので、その旨を含めて、次は意見交換の場に移らせていただきます。

初めての方もいらっしゃるので、所属と名前など自己紹介をした上で、ご意見をいただければ幸いです。

私の左の澤田先生から始めて、左の列を終わった後、石黒先生という順番でやらせていただきます。よろしくお願いします。

澤田委員：よろしくお願いします。東京大学相談支援研究開発センター、精神保健支援室で精神科医をやっております澤田と申します。よろしくお願いします。本日、少し遅れてしまって申し訳ございません。

全体を通して、文京区で「にも包括」に伴った取組がいろいろなされてきているかなという印象を受けました。ただ、それぞれ、まだ課題は多くあるかなとは思っています。

例えば、まず地域移行に関しても、報告の中でもあったとおり、長期入院の方で地域移行を利用している方というのは、まだ正直少なかったという印象があることです。この調査の中でも、長期入院の方が結構多くいるんですけども、入院治療は不要で退院の希望がある者の割合は、残念ながら少ないと思います。

例えば全部で48名いた内に、サポートを受ければ該当者はもっと増えるんじゃないかなという印象があります。サポートとか地域の受皿ですね。やっぱり地域の受皿や地域の人や家族の考え方、そういったものがハードルになっているのかなという印象を受けました。

それから、この地域移行が文京区で充実していき、モデルになってくると良いと思いました。地方は、かなり長期入院者が多いですね。精神科の医療保護入院のときに、地域移行というのは法律上でも言われていますが。地方で診療をしていると、あまり充実していないと思う場面も多いので、文京区で、そういったモデル的に何か地域移行で、こういうところは確かに大変なのだけど、こういう工夫をすればうまくいくというのが、より明確になると、地方でもうまく取り入れてもらえるようになるとよいと思います。

普及啓発も地域の受皿を充実される意味で大事だと思っています。普及啓発として、講演会が文京区ではかなり充実していて、インターネットゲートキーパー事業とか、講演会とか、色々行われています。本学の学生にもアナウンスして、いろんな若い人にも知らせていければと思います。ピア活動とか地域移行とかを色々やっているということを、区民の皆さんにも広げたりしていくことはとても大事なかなと思います。また、さっき言ったとおり、これがモデルになって、例えば医療従事者の方々にも、こういった地域移行というのがあるんだよということが示されるといいかなと思います。意外と灯台下暗しで、精神科医療をやっている人で、地域でこういう活動をしているのを知らないとか、知らないからこそ地域に退院させるのは無理じゃないかという意見も時々聞かれるので、やはり地域にこういう活動をしているというのを、医療側にも伝えていけると、退院の支援についても、医療者側もまた考え方が変わったりすると思うので、とても大事なことかなと思いました。

大高委員：日本医科大学附属病院の精神科の精神保健福祉士の大高と申します。

どうも、ご説明ありがとうございました。この「にも包括」に沿って事業が進められているということを知って、とても整理された思いではあるんですが。ただ、個々の様々な事業、そして既存の文京区にある資源というところ、それらが自分自身、十分にやっぱり整理されていないなということを、改めて感じる時間でもありました。

既存の区あるいは民間で行われているたくさんの事業のお話が出ていましたけれども、それらがこれまでどのような役割を持って活動してきているのかということを十分、個々のサービスですとか事業所の活動というのを、私も十分知れていないなということがありました。

実務者連絡会で、今年は地域生活支援拠点の紹介があるというお話を聞いて、この辺りは

「にも包括」の事業の中でも、かなり肝煎りの資源だと思うんです。各拠点の状況というのは、私も十分知らないですし、私は病院から、患者さんを、区民の方をつなぐという立場なんですけれども、やはりその資源のことを知らないとなつげないということがあるので、こういった拠点のご紹介であるとか資源を、もう少し区の専門職の中でも共有できるような何か仕組みみたいなものがあると、ありがたいかなというふうに思いました。同時に、私自身、もっと勉強しなくてはいけないと感じました。

あと、普及啓発もたくさんされているんだなということを改めて知って、インターネットゲートキーパー事業というのを、澤田先生もおっしゃっていましたが、すごい進んだ取り組みだなというふうに思いました。これは、NPOのほうに委託をされているのかなと想像しましたが、具体的なその相談に、相談ページからメール相談に移行した人がどれぐらい区民の人でいるのかなとか、細かなところも気になりました。

あと、ピア活動のところですね。ピア活動のところでは、最近、ホットなトピックで、この間のコア会議でもお話がありましたけれども、私は病院の立場なので、病院のスタッフ向けの教育やスタッフ支援というような枠でも、そのピアの方の何かお力添えというものが、今後いただけるとありがたいなというふうに思っていて。ただ、病院の中で予算化とか仕組みをつくるというのは結構大変な状況もあって、まず、そこをもし可能であれば、自治体のほうのバックアップで予算化ですとか、そういう派遣をいただけるような仕組みづくりみたいなものに進んでいくと、1機関、立場としてはありがたいなということを感じていました。

私からは以上です。

根上委員：東京都立精神保健福祉センターの地域体制整備担当の根上と申します。よろしくお願ひいたします。

私は、この4月にセンターのほうに参りまして、都事業と呼ばれております精神障害者地域移行体制整備支援事業の担当をさせていただいております。文京区の皆様には、かなりいろんな様々な面で都事業をご活用いただいております、大変ありがたく思っております。本日は、私が関わっておりますところのお話を中心に、お話しさせていただければと思います。

まず、ご報告いただきました地域移行支援検討会議には、私も本年度から参加させていただいております、そのお話を伺っております。やはり、文京区さんは、本当に地域移行に関して、それからピアも含めてなんですけれども、とても熱心に活動していただいております、私の前任からも、文京区さんは、他区のモデルになるような活動をしているというこ

とで伺っておりました。私も今年から下谷に参りまして、下谷エリア13区、東側の区を担当しておりますけれども、その中でも文京区さんの取組というのは、ほかのところでご紹介するくらいとても進んでいらっしゃるなというところは、日々感じているところでございます。

地域移行検討会議には、2回ほど参加させていただいておりますけれども、やはり長期入院者の地域移行ということが、やはり時間と手間暇がかかるというところで、実績が上がりにくいというのが一つの問題なのかなというふうに感じております。

実際に、地域移行を支援して退院できた人が何人かと聞くと、数字として表れてくるところが難しくて、そこだけで判断されてしまうと、この事業って何なんだろうということになってしまうかと思うんですけれども。やはり手間暇がかかる。それから、やっぱり当事者の方のお気持ちというところが一番大事なので。一旦は退院する気になっても、揺れてしまって。お金の面ですとか、実際に1人で何十年ぶりに地域に出たらどんな暮らしになるんだと、不安を感じられて。退院したい気持ちと病院にこのままだとほうがかたくなじゃないかと揺れるところで、そこをきちんと地域移行に向けて動機づけをしていくということが、やっぱり難しいところだと思っていて、その辺りを考慮したような大きな目で事業を応援していただけるとありがたいなというふうに思っております。

ご報告の中にありましたとおり、長期入院者は割と遠方の病院に、特に文京区には長期に入院できる精神科の病院があまり多くはございませんので、どうしても区からは遠方の病院に入院されておられて。気づいたら何十年経っていたとなると、もう文京区に帰る家もないとか、家族の方もいなくなってしまったとか、いろんな意味で退院が難しくなっているという状況はあるかと思えます。文京区に帰りたいというお気持ちもある方もいらっしゃると思いますので、文京区に帰ってきて、文京区で1人で、もしくは仲間と一緒に生活できる環境づくりというところで、ぜひ「にも包括」の議論を活発化させていただけたらありがたいなというふうに思っております。

それから、あとピア活動では、都事業のピアアドバイザーをご活用いただきましてありがとうございます。ピアさんのほうについても、かなり進んだ活動をされているなというふうに感じておまして。コア会議は、私もお声がけいただいていたんですけど、伺えなくて、次回はぜひと思っております。こんなにたくさん、いろんな方からご意見をいただけているということは、本当に関心が高いなということと、区として働きかけを上手にやっていたらいいなというところは感じております。

ピアさんと地域移行の結びつくところとしては、動機づけ支援、身近なピアサポーターさ

んに行っていたかどうかということで、地域移行にスムーズに移行できる可能性が高まるというところがあるかと思います。ぜひピアさんの活用を今後ともご検討いただければなというふうに思っております。

またピアさん自身も、この活動を通して、回復につながるといいますし、ピアさんの社会参加という面でも、とても大事なところがあります。報酬の面もご意見があったようですけれども、やはりピアさんも自分がした活動に対して、何か得られるものがあるというところで、やる気もさらに倍増されます。社会に参加しているというところにご本人の動機づけがさらに高まることにつながっていくかなと思います。お金が絡むと、そう簡単にお話が進まないということも、他区では様々あるんですけれども、ぜひ検討していただけたらうれしいなというふうに思っております。

長くなりましたが以上です。ありがとうございます。

成塚委員：文京区薬剤師会から来ました、千駄木のどうかん薬局の薬剤師、成塚と申します。

コア会議に前回出られなくて申し訳ございません。様々な普及活動の報告を見せていただいて、出られなかったのがちょっと残念だなというのをすごく感じました。

個人的に関係するところだと、文京区精神障害者支援機関実務者連絡会、こんな長い名前だったんですねと思ってしまったんですけれども。「薬剤師の実際を知り、連携について探ろう」というこの会議で、医療の立場からだけでなく、保健、福祉の方々がどんな悩みを抱えているのかというのを、どちらも知っていきたいというのもありまして。薬局ってこんなところなんだよ、こうやって利用する方法もあるんだよというのをアピールしていききたいとは思っているんですけれども。

お薬の勉強だけでなく、この会で実際に支援機関の方々が、利用者さんに対してどんな悩みを抱え、どういうところで行き詰まっているのかというのを吸い上げながら、少しでも答えを出していけたらなと思っております。

うまい連携、支援体制の整備という意味では、自分たちだけでなく、医療、福祉、保健、全てがうまい形で連携できていけたらなと思います。この会は、自分が講演者という形で、生意気ながらやらせていただきますけれども、どちらかというと皆様の意見を集めていききたいというようなところもあるので、よろしくお願いいたします。

平野委員：文京区で訪問看護をさせてもらっています、ホーム訪問看護ステーション管理者の平野と申します。主に精神科、精神疾患の方をメインに訪問をさせていただいております。

今回初参加ではあるんですけども、初めてコア会議に参加させていただいて、ピアサポー

ターは、もともと名前としては知ってはいたんですけれども、こういった活動をしているかというのを今回の参加で勉強させてもらって、すごく重要な役割をされているんだなというのを知ることができました。

ピアサポーターの役割を考えると、地域で私たち訪問看護の場合は、例えば位置づけ的には、病院と患者さんの間に立って、うまく治療に向けてサポートしているところがあるんですけども。ピアサポーターさんといったら、逆に病院と患者さん、医療者と患者さんの間に立ってサポートしてくださる方なのかなと感じました。

事例検討のところに、やはり強固なこだわりとか、認知のゆがみというところがあったんですけども、やはりそこはピアサポーターさんって、すごく強みのあるところかなと思いました。訪問看護を行っていると、そういったところの説明はするんですけれども、医療者として信頼してくださっている方を受け入れて、聞いてくださって治療につながるんですけども、やはり中には、医療者だろう、健常者だろうということで、なかなかその壁が厚くて、説明しても受け入れてもらえない部分とかがあるので。ピアサポーターさんが来て、同じ目線からサポートとかしてくださるんで、やっぱりそこってすごく強みがあって、大きな役割だなと思いました。

やはり今までは、こちらが不勉強で、ピアサポーターさんというのも、知ってはいたけど、どう利用するかというのも分からなかったの。訪問看護で利用したいなとか、あるいは、こういった経緯で使っていけばいいかというのを、また教えていただければ、学んでいければなと思いました。

以上です。

石樵委員：社会福祉協議会の石樵と申します。よろしくお願いいたします。

今日、お話を聞いて、区のほうでいろんな課題を広く捉えて、様々な取組をされているということを理解しました。とても勉強になりました。

私のほうからは、地域に近い社協として、どのような取組をしているかをご紹介しますながら、少しお伝えしていきたいと思っています。

私たち社協には、権利擁護センター、あんしんサポート文京というものがありまして、高齢の方や知的障害の方、そして精神障害のある方、大変多く利用されているんですが、それらの方を対象として、権利擁護に係る事業を行っています。あわせて、文京区の権利擁護支援体制を整備するというのが、私たちの取組の一つです。

具体的には、地域に権利擁護を理解している人、その担い手となっていく人を増やすとい

うことがありまして、今年度から今現在、お隣に民生委員の方がいらっしゃいますけれども、地域の様々な支援の担い手となってくださっている方を対象に、権利擁護に係る講座、学んでいただけるような機会を提供していく予定であります。

また、社協では、地域の方の地域活動を支援するというのが、大きな役割の機能なんですけれども、住民の方同士の集う活動や、誰もが、どんな方でもそこに立ち寄っていただいて、そこで過ごしていただいて、お互いに見守りですとか、支え合いにつなげていくような居場所づくりの推進というものが私どもの役割です。

権利擁護の担い手の創出というのは、そのような場所、いろんな地域、あちこちに権利擁護を理解している人がいて、見守りや支え合い、そこに力を貸していただけるような地域づくりを目指していくものです。

ここでちょっと本日のテーマに話を寄せていきますけれども、居場所を運営する住民の方というのは、非常に地域共生社会に共鳴して、地域の支え合いの実現に熱意がある方がたくさんおられますけれども、ただ、そのような方がいて、そのような活動や場所があれば、障害のある方が地域で根づいていけるかという、やっぱり難しいんですよね。障害のある方、例えば退院後に地域移行をする方ですとか、通院しながら地域で暮らしている方、その方がいろんな地域のあらゆる場所で過ごし、利用し、つながっていくことで安心して暮らせるということを実現していくためには、やはり、そこに障害や、あるいは権利擁護、障害を理解する、その人たちが、街のあちこちにいるような地域づくりが、やはり必須だなというも感じております。

街のあちこちで、普通の住民の方が障害を理解したり、知識を持っている、必要な配慮ができる、そんな地域づくりにつながっていけば、ご本人が安心していただけるのかなと、日々思っております。

よく合理的配慮という言葉がありますが、配慮の前提には、やはり障害の理解ですとか、知識というものが必須ですので、今日お話を聞いたピアサポーターや、心のサポーターですかね。こういう方々は非常に、まさしくそのような存在だと思うんですけれども、さらに地域住民への連続性を担保するというか、地域住民との段差を解消するような、そんな取組にも広がっていけるといいなと思いますし、私たち地域のほうから、むしろそこに寄っていくようなことも取り組んでみたいなと感じました。

以上でございます。

山岸委員：初めて参加なのですが、文京区民生児童委員協議会、駒込地区の民生児童委員の山

岸と申します。

本当に初めてで、全く分かっていない私で、とても恥ずかしいんですが、皆様のご意見をいろいろ伺って、とても勉強になりました。それで、私たちは、地域の皆さん全部を対象としている活動なので、私たちが一番皆さんのことを理解していかなくتهはいけないんだなということとはよく分かりました。

私たちは、心のサポーターやゲートキーパー研修など、いろいろな講演に参加していなかったなと思って。もっと皆さんの理解を深めるために、そういう勉強をしていかなくتهはいけないなということを痛感いたしました。

それと、先ほども言われたことですが、地域の受入れ、居場所ということも、割と子ども食堂とか、高齢者向けの居場所とかというふうに、何かこう区切っちゃっているところがあるんですが。先日も子ども食堂も、高齢者の方とかいろいろな方がいらっしゃっているんですよというお話をされて、あ、そうだ、子ども食堂だって、「子ども」とついていると入りにくいけれど、いろんな人が、誰かに見守ってほしいとか、誰かと話したいとかという交流の場として考えると、とても大事なところで、受け入れる対象者とか、いろいろなことも考えて、皆さんと集える場所というふうに考えていけばいいんだなというふうに。何かとても特別なことというふうに考えないで、みんな一緒に集える場所を考えていけばいいんだというのを、コア会議のときに痛感いたしました。

本当にこれから勉強していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

礒部委員：文京区で、訪問型派遣サービスをしております、ケアワーク弥生のサービス提供責任者をしております礒部と申します。

ピアサポートや、こういった様々な活動等は、皆様が言われているように、同様に感じておりますところと、うちの会社だけとは思わないんですが、現場で思うこととしては、ご本人様たちを、現場で支える人が、かなり少なくなってきた、新しくご依頼をされても、なかなか受けられないような状況になって、かなり深刻な状況になっております。

正直、うちの会社としても、求人等をかなり出しているんですが、全然、応募もないような状況でして、利用者様の退院された後の生活の支援を支えるというところとか、新しく支えていくということが、かなり厳しいような状況になっておりまして、ほかの事業所さんや関係各所、訪問診療だったり、医療の方たちも、その辺のところはどうなのかなと今思っているところです。

できましたら、そういったことの対策や解決策みたいなものがあれば、私どもが思ってい

るだけでなく、皆様のご意見等をいただけたら本当にありがたく思っております。よろしく
お願いいたします。

以上になります。

菊池委員：障害者基幹相談支援センターの菊池です。

会議体の報告を受けまして、まず地域生活安定化会議ですが、精神科の先生がアドバイスをくださる機会が設けられたのは、大きな変更点ですごくよかったと思っています。私自身も地域活動支援センターに着任時代に受け持っていました。他のサービスになかなかつながらない方をこの事業だけで支えていることも多くありました。報告の中にもありましたけれども、支援の中で迷うことや、これでいいのかなというようなことも多くあって、保健師さんと一緒に相談しながらではあります。地域の事業所が担う事業としては、なかなか負担が大きいなというふうに思っていたところがありました。

地域移行支援検討会議は、実務者連絡会も安定化もですが、基幹相談支援センターは事務局や委員として関わっているの、大体事業の中身は分かっているのですが、今回、同僚が遠くの病院に半日かけて調査に行くという場面も見かけており、特に地域移行支援は、時間がかかってそれでいてなかなか実績につなげていくのが難しいという内情があります。地域移行支援も安定化支援も、触れる機会がある方にしか分からない事業内容でもあるのかなと思います。区内で報告会などを開いて、もっと多くの支援者の方々に分かっていただく機会があるとより良いと思っています。

コア会議では、引き続き検討事項ということで、ピアサポートを区内でどんなふうに進めていくかということをお話し合っています。9月6日に、またプロジェクトチームで詰めていく話ではありますが、この資料の中にもありましたように、一度、大きなイベントを開く企画をしております。まずは区の中でいろんなレベル感で活躍の場があるということ、何人かの方に話していただいて、それを聞いていただいた方に関心を持っていただき、自分もこういうところだったら力を発揮できるのかなと考えてもらえるような機会になるといいと思います。また、所属している事業所などがいない方々、障害者雇用などで会社と自宅の往復だけになっている方々にも興味を持っていただけたら、様々な視点からピアサポートの展開方法を考えていくスタートになるようなイベントにしていきたいと思っております。

最後に、普及啓発等の取組のところで、基幹相談支援センターでふだん仕事をしていて思うところをお伝えします。最近、高次脳機能障害の方のご相談が多くありまして、働き盛りの方が脳出血、脳梗塞等から、突然高次脳機能障害を負って、特に失語症などを負われると、

一見、普通に話していらしても私の言葉は音としては分かるけれども、意味がよく分からないとか、結構時間がかかる支援が多くあります。高次脳機能障害のリハビリについては、今度基幹相談支援センターの相談室を使って個別相談会をしますが、担当いただく講師の東京慈恵医大の先生からは、専門の医療にかかっている、高次脳機能障害のリハビリを本当に分かっている先生は、どれぐらいいるのかなとのお話があります。自分の障害をしっかりと理解できるような説明を受けながら効果的なリハビリを受けるなど、回復に向けて動くという支援は、実際なかなか難しいもので、今かかっている病院から、より専門的にリハビリを考えてもらえるような医療につなげていくような支援を考えることもよくあります。

文京区の取組として、講演会や個別相談会があるというのは、区民の方々にとって貴重な機会だと思います。相談してこられる方の多くは、泣きながら「何も分からなくなってしまった」「今後、何から取り組んだらいいかもよく分からない」とおっしゃっていて、医療にはつながっているけれども、何もリハビリをしていないというような方も結構多くいらっしゃいます。区としてはこのような事業をいろいろな方法で広報していただき、不安に思っている方々がどんどん救われていくといいなと思っておりますし、基幹では何か助けになる支援を今後も続けていきたいと思っております。

以上です。

松尾委員：特定非営利活動法人エナジー本舗の松尾と申します。

当法人では、精神障害者の方を対象とした地域活動支援センターと、あと指定特定相談支援事業所、また障害者の方のご相談と、あと、地域の方、誰でも来ることのできる居場所を「ふらっとだんござか」というところをやっている駒込生活あんしん拠点の事業を行っています。

普及啓発というところでは、今度9月1日に、当事者の方のリカバリーストーリーを語る精神保健福祉講座というのを企画しておりますし、11月には、毎年開催しているのですが、地域で誰でも参加できるバザーなんかもこれから予定しております。

今日の会議の中でも話題になっていましたけれども、ピア活動のことについて、お話ししたいと思っているんですけども。以前もお話しさせていただいたことがありますけれども、他区の病院、精神科の病院との関わりが、昨年度からありまして、音楽を通しての交流会を、昨年度は年に3回、そして今年度は、既にもう2回開催をしております。次回11月を予定しているんですけども、先ほどの意見交換のところでもありましたように、交流会を通して、メンバー自身が自分たちの強みとか自主性とかを発揮しながら、メンバーがとても生き生き

としている姿という、メンバーの変化が、この取組を通して、すごく見られているなというのを感じています。

自分たちが病院に出向いて交流することで、一緒に何かをやることで楽しいだけではなくて、自分たちが役に立っている。そして、もっと何か交流できないだろうかというふうに、メンバーのほうからいろんなアイデアを出してくださったりとか。コア会議の報告に書かれているように、グループにもその影響が出ておりまして、メンバーみんなが柔らかい雰囲気だったり、すごくみんなに優しい態度だったり、交流自体が、いい循環になっているなというのを感じていますし、日々のグループ活動で、メンバー同士がとてもお互いを支え合っている姿をいつも見ております。

支援者ができることって本当に限られていて、支援者が何かメンバーに伝えるよりも、メンバーから何か伝えたほうが、心に響くこともたくさんあるなというふうに感じておりますので、今後、ピアプロジェクト会議、私も参加しておりますけれども、ぜひ、当事者の方にも、今後のご意見とかをいただきながらイベントが開催できたらいいのかなというのと、文京区で既にもう各事業所で、いろいろなすばらしい取組をされていると思いますので、その取組を皆さんで結集させて、事業所の強み、そしてメンバーの強みを生かしながら、イベントが企画できたらいいのかなというふうに思うのと、すぐに何か成果は、出ないかもしれないんですけども、時間をかけながらゆっくりと育てていければいいのかなというふうに感じております。

以上です。

奥野委員：公益財団法人東京カリタスの家の奥野でございます。

私どもは、公益法人では幾つかの事業部門があるんですが、その一つとして、地域生活支援センター、相談業務等をやっております「みんなの部屋」というものがございます。この事業は、文京区さんの監督・指導の下に事業をやっておるわけですけれども、コロナもありまして、地域との連携ということでは、なかなか踏み出せなかったのかなというふうには思っていますが。今日のお話にもありましたピアのことも、これから学んで、どういうふうに関わるべきか、ということは、今後、考えていきたいと思っています。

それとともに、ボランティアベースの相談業務をやっている部署がございます。私どもは、カトリック教会を母体にして出来上がっているものですが、そこが五、六十年前からやっている相談業務でして、家族福祉相談室と呼んでいますが、ボランティアの登録数は百数十名おりまして、主として精神障害の方の電話相談が多いです。

精神科医のご指導の下にやっておりますけれども、ボランティアをやっている方は、カトリック信者のみならず、他宗教の方、また無宗教の方もおられます。こうした活動が、先ほどの普及啓発等の取組のところでもありました、地域包括的な中で、今後、どういうふうな取組をやっていくかと。教会ボランティアとしてやってきたということで、やや周りとの連携を考えず、自分たちで凝り固まるところもありますが、今後は、地域包括ケアの中でその活動をどう位置づけて、どう組み込まれていくかということも考えていきたいなというふうなことを、考えた次第でございます。

以上です。

平井委員：社会福祉法人復生あせび会、就労継続B型事業所アビームの管理者の平井と申します。

私どもあせび会では、B型事業所のほかに富坂生活あんしん拠点、グループホームアンダント、地域生活支援センターあかり、あと、地域生活あんしん支援事業等々をやっているんですけれども。以前、私も地域移行の事業に従事していたんですが、やはり都内の西側と東側の問題で、時間がかかるんですけれども。やはり一番、地域移行はタイミングが大事な事業かなと思っていますので、支援者がなかなか入れないところもあるんですが。そういったところでピアだったり、東京都の広域事業もうまいこと使いながら、タイミングをうまく図れる状況ができると、よりいいのではないかなと切実に願っております。

ピアの事業に関しては、アビームのほうでは特に病院のほうに行ってであるとか、地域に特別出向いてというのはなくて、事業所内の利用者さんの交流であったり、お客様との地域との交流というところがベースになってはいるんですけれども。今度、11月秋口に行われるイベントのほうでも、やはり、ピアってどういうことなのか、各事業所がどんな取組をしているのか、あとは、この間の障害福祉計画のほうでも、直近入院者の方への初めての調査が行われたとか。従事している方は、知らない情報もあったりするので、やはり情報の取扱いといったところで難しいところはあるかもしれないんですが、いかにみんなの持っている情報を効果的に共有できるかといったところで、取組ができるといいのかなと考えております。

以上です。

皆巳委員：社会福祉法人本郷の森、銀杏企画の皆巳と申します。

私どもは、日中活動の場で、就労継続B型事業所、あとはグループホームと計画相談の7事業所と、文京区委託の本富士生活あんしん拠点の8事業所を行っている法人となっております。

ピア活動ということでお話をさせていただくと、当事者が当事者に対して話すということではないんですが、今現在、精神保健福祉士の実習生の受入れだったりですとか、本郷台中学校の中学生の職場体験実習の実習先になっていたり、あとヘルパー養成講座の実習先になっていたりして、そういう実習生たちにリカバリーストーリーを利用者が話していくということも、立派なピア活動なのかなと思ったりですとか、あと、利用者自体が平均年齢50歳ぐらいなんですけど、同居されているご家族の介護をしながらB型事業所に通っているという利用者も多くて、作業をしながら、大変なんだよね、今日もおむつの交換をしてきたんだよみたいな、ご家族の介護の大変さを話して、そうだよ、大変だよ、ふだんの日常会話自体も、すごく立派なピア活動なのかなと、日々活動しながら感じているところではあります。

うちも、ピアサポーターみたいな運営は、今は実働してはおりませんが、今後はこの会議に参加する1人として、やっぱり意識を持って参加していこうかなと思っているのと、その小さな活動の中でも、今日も隣にいる老さんもそうですが、こういうピアの活動をされている方が、事業所の中、法人の中にいること自体がとても大事で、その方をモデルとして、自分もやってみたいという思いや、そういった世界があるんだというのを知るきっかけにもなるかなと思うので、一つ一つは小さな芽なのかなと思いますが。引き続き、小さな芽を常にまき続け、長い目でいつか芽が出て、花が咲くというか、実になる日が来ることを祈りながらサポートをしていけたらなと思っております。

以上です。引き続きよろしくお願いいたします。

老委員： 银杏企画三丁目の利用者です。当事者です。

この前のコア会議に参加した感想レポートを作ってみました。その要約です。読みます。

ピアという言葉が知らなかったけれど、改めてピアの活動をやっていることが分かりました。障害者を含めて三丁目PC同好会を主催したり、Facebookにページを設けて発信したりしており、それもピア活動に入ることを知りました。また、银杏企画三丁目では、いろいろな人に積極的に話しかけたりしており、それもピア活動になることを知りました。

文京区の本富士生活あんしん拠点のなでしこサロンの参加にも積極的で、月一度ですが、毎回参加しております。メンバーを誘ったりして参加しております。Facebookでは、健常者と障害者の垣根なくお付き合いをしており、いい感じです。日本人の日本語でのチャットもそうですが、英語で使ってはいけない単語や語句をしっかりと避けてチャットしており、チャットを1時間ぐらい続けたりすることもあるとあって、人との付き合いはうまいほうかもしれませ

ん。この辺りはピア活動と言え言えるのですが、障害者との活動ではありません。

しかし、健常者、障害者の垣根なく活動できており、障害者にも優しく、親切、ちょっと賢いというような価値観で話を進めております。健常者にとって当たり前のことが、障害者では当たり前でない場合があります。その辺り、人に応じて会話の内容を変えていくことや、なるべく相手を尊重して、偉そうな話はしないことや、気分が悪くなるような話題は振らないことなどを、気をつけております。相手の話に相づちを打ったり、そうだねと相手を認める発言をして会話を進めたりすることで、気分よく話が続けていくことが経験から分かっているのです、そうしております。

コロナの前は、1か月に一度の割合で、友人宅でパーティーをやっておりました。その友人は障害者で銀杏企画のメンバーでもあった人です。近くの「まいばすけっと」で食材を買い込み、調理したりして、おいしく楽しいパーティーでした。趣味の話や好きなアーティストの話、音楽をかけたり、映像で見たりして楽しかったです。

こういう社交的な障害者もいるのです。もう一步踏み出せない障害者に、肩を押す言葉をかけたり、励まし合い、褒め合って、人間関係をよく、方策を示したり導いたりすることも必要ですね。その人は、そうできている人だったので言うことはありませんが。それを希望してもできないので困っている障害者、仲間をつくりたいのにできない障害者を、手助けすることも、一步踏み出すことの有用性を示すことは、ピア活動の最たるものではないでしょうか。

以上です。

浅水委員：文京区家族会の会長をしております浅水と申します。よろしくお願いします。

ちょっとお時間が迫っていて、言いたいことはいろいろあるんですけど、少しだけ。

まず、家族の立場からということで、長期入院者の地域移行で、やっぱり家族との連携も難しいというふうに伺っておりますけれども、まず、長期入院されている方の問題は、家族会とかでも話題に上がることがございます。親も、既にもう高齢化しておりますので、多分、ご兄弟とか、そういったほかの家族の方の問題というふうになることが多いのではないかとこのように考えています。

過去の、例えば陽性症状のときの家族に対するいろいろな問題から来る不安とか、あと現在の生活が安定しているので、それを壊されたくないとか、親の高齢化で、親が今まで担ってきたために兄弟が分からなかったというところで、経済的な不安とか、生活の不安があるんだと思うんですね。

家族会のほうでは、そういったケアを家族が担う、家族が決定権を持って担う時代は終わ

ったというふうに認識しています。今、当事者を中心に、そういった問題を進めていくというところで、やはり支援者の方の力というのがすごく大きくなっているのではないかなというふうに思っています。

そこで、先ほど人手不足みたいな問題が、ケアワーク弥生さんのほうから出ましたが、コロナで大分、事業所さんの数も減ってしまったというところで、高齢者介護の問題とも同じなんですけれども、その人材不足のほうを何か区のほうでも進めていただけると、今後、ちょっと助かるんじゃないのかなと思うんですね。私が子育て中のときには、ちょうど介護保険が始まるのかちょっと忘れちゃったんですけど、ヘルパーさんがたくさん要るということで、国が何かから補助金が出て、お友達はみんなヘルパーさんの資格を取って、今や私たち60代になって、ケアマネジャーさんとかやるようになっているお友達が、結構いるんですけれども。昔はそういった子育て中で、一旦職場から離れた方とかが多かったのも、専業主婦の方とか。そういったところがあったのかなと思うんですけれども。また今の時代、ちょっと違うかなとは思いますが、何かそういった外国の方ですとか、どなたかを増やしていただければ、またそこから専門的なところまでやっていただけるということにつながるのではないかなというふうに、ちょっと個人的には思っていました。

あと、家族会の立場で、今ピアの話に参加させていただいているんですけれども、家族会でもそのピア活動について、協議会でいろいろお聞きしたりとかして、ちょっとやる気が出てきて。会員の方からも、家族じゃなくて、自分の娘や息子の何か場はないんですかというようなお話もあったので。早速、小規模な団体ですので、ちょっと小回りが利くということで、もうすぐやろうということで、ピアの方、当事者の方を中心とした会を今年度立ち上げまして、好評だったので、次また10月に2回目をやろうということで、もう決まっております。

家族会では、家族だけのおはなし会というのは、毎月やっているんですけれども、そこでは、やっぱり同じ家族として、いろんな苦労があったり、困ったことがあったり、楽しかったことがあったりといったことをお話しする中で、やっぱり人の話を聞いたり、話したりというところで、とても支え合う関係がうまくできていて、もうなくてはならないという感じなので。それと同じような気持ちを当事者の方にも味わっていただきたいなというところで、私たちが企画した家族会の当事者会というのは、ちょっとゲーム感覚も取り入れながら、後半は、そういった当事者の方だけで、支援者とか家族を抜きにしてお話をさせていただく場ができればなというふうに思っています。

先ほど、基幹相談支援センターの菊池さんもお話ししていらっしゃったんですけれども、事業所に通っている方は、そこでメンバーさん同士の支え合いとかができるかなと思ってるんですけれども。家族会の中には、そういったところにつながっていない方も数多くいらっしゃいますし、就労されている方などもいらっしゃいますので、なるべくその方たちも参加しやすいような環境をつくって、今後も続けてやっていきたいなというふうに考えています。

あと、最後に、区取組の自殺対策で、インターネットゲートキーパー事業というのを、初めて知ったんですけれども、すごくいいな、と。そんなことをやっていただいている、本当にうれしいという感じなんですけれども。ちょっとそれは個人的なところで、娘が、自殺の希死念慮が多いというところがあったので、最初そういったところになかなかつながらない。親も、区というと、手続上の相談をするところみたいな感じで、区役所というのはすごく遠い存在なので、何かあったときに、どこに相談しようというときに、区役所に相談とかそういうのは、もう頭に思い浮かばないですね。

それで、例えば「いのちの電話相談」とかがあるよといっても、つながらないことが多かったりするので、今の時代、こういったことがネットとかでできるのは、とてもいいんじゃないかなというふうに思います。どのぐらいの方が利用されているのか、ちょっと気になる場所ですので、また教えていただきたいなというふうに考えています。

どうもありがとうございます。

石黒委員：東京都立精神保健福祉センターの所長の石黒です。私は、4月から新しく所長に就任しました。

センターに関しては、都立の精神保健福祉センターが東京都は三つありまして、そのうち私のセンターのほうは、東部の13区の所管ということになっております。やっていることとしては、一つは専門的な中核機関として、各区であるとか支援機関の支援をやっていたりとかですね。あるいは、より専門的な相談支援をやっていたりとか、プログラムをやっていたりとか、デイケアをやっていたりとか、あとは、もう少し広域的な地域の体制づくりの支援をやっていたりしております。

今日もいろいろ興味深かったお話をたくさん聞けて、すごくよかったと思ったんですけれども。幾つかお話しすると、一つは地域移行に関してですね。東京都は、やっぱり精神科病院の偏在というのがどうしてもございまして。文京区さんから見ると、ちょっと遠い病院に長期入院している方というのが、どうしてもいらっしゃるんじゃないかなというのがあって。

そこをどういう形で今後やっていくかということを、いろいろ考えていらっしゃるんだなということとはよく分かりました。

全般的に、精神科病院の地域移行に関して、今一つ課題だなというふうに思われているのは、やっぱり動機づけの問題なんですよ。長期入院されている方というのは、その地域移行に関しての動機づけというのはすごく大事で、だけど実際それが難しいということは言われていて。その辺もいろいろ工夫しながらやっていくということを、いろいろ考えていらっしゃるのでいいなと思ったのと、それから、もう一つ。これは私が思っていることなんですけれど、地域移行、地域定着は大事なことなんです、もう一つの視点としては、新たな長期入院であるとか、社会的入院というのを、なるべくつくらないような仕組み、システムづくりを併せて考えていくということもすごく大事だなと思っていて。こういった会議で、そういったことも少し検討していけるようなことができると、すごくいいんだなと思いました。

それから、もう一つ、すごく今特に関心を持っているのが、ピア活動のことにに関してなんですけれども。今言った動機づけに関しても、ピアの方の接触というのが、すごく長期入院の方とか、地域移行に関しては大事な役割を担っていて。これは本当に、ピアの方じゃないとできないことというのが、すごくたくさんあってですね。それで、私もちょっとこの前のピアのコア会議にオンラインで参加させていただいたんですけれども。文京区さんのピア活動でいろんなことをやっていて、いろんな可能性がそのピアの活動でもあるんだなということとを改めて認識できたのが、すごくよかったなと思いました。

それから、私も4月に都立の精神保健福祉センターに着任したばかりなので。それまで都庁にいたので、ちょっと現場から少し遠いところにいたので、改めてピアのことについて、いろいろ私も学んでいるところなんですけれども。

うちのセンターでちょっと先駆的な取組で、数年前からなのかな。ピアの方にも参加していただいている事例検討会というのを、年に何回かやっているんですね。この前、ちょっとそれに私も初めて参加して、やっぱり支援者の視点じゃなくて、ピアの方の視点で、関係づくりとか行き詰まっている事例なんかにもすごくいい意見をいただいたりして。やっぱりピア活動って本当にいろんなことに可能性が広がるんだなというふうに、改めて認識した次第でございます。

それから、もう一つですね。地域包括ケアということを考えていく上で、やっぱり住民の方を含めたいろんな方の理解というのがすごく大事だと思うので、こういった区のほうで情報発信であるとか、普及啓発に関する取組をいろいろやっていただくというのは、すごくも

う一つのこととしては大事な事だなというふうに思いました。

改めて、私も含めてそうなんですけども、いろんな機関がいろんな支援とかいろんなことを一生懸命やっているんですけど、全体を通して、どの機関がどういうことをやって、どういうことが強みであるとか、そういったことがちょっと分かりづらくなっちゃうというところがあって、そこをみんなで情報共有していく。そういうことがあると、よりその当事者の方の支援にすごい生かして、今後、進んでいける一つのものになるんじゃないかなというふうに考えております。

それから、先ほどちらっとご意見が出たんですけど、もう一つは、やっぱり今後いろんなことがあって人材育成ということも、すごく大事になってくるんじゃないかなと思うので、その辺も含めて、またいろいろ考えていくということが、新たな課題としてあるかなというふうに思いました。

私の感想は以上でございます。

守谷会長：すばらしい意見が出てきて、今あった発言に対して、皆さんからまたそれに対する意見が出てくるとは思うんですけど、ちょっと時間がなくなったので、それは割愛させていただきます。申し訳ありません。

じゃあ、最後に事務局の方、コメントをよろしくお願いします。

保健対策担当課長：今回、様々な立場でいろいろなご意見をいただきまして、私としても知らなかった部分というのがたくさんあり、大変勉強になって、また今後の取組に向けての参考となりました。

委員の方から、インターネットゲートキーパーについて、どれぐらいのご相談につながっているかというお話がありましたので、簡単にご紹介させていただきます。今年の1月から、インターネットゲートキーパーの取組を進めているところでございまして、インターネット上で、例えば自殺ですとか希死念慮とか、そういったことに対しての検索をかけると、広告表示がされるといったようなところなんです。

ある一月の広告表示件数というのは、大体9,000か1万件ぐらい広告表示がされているといったところでございます。ただ、その広告表示がされて、その後にクリックにつながったのが、大体7%の600、500人ぐらい。さらに、精神保健福祉士の相談につながっているのが、大体5名から10名程度といったところでございまして。相談を1回した後、その後返信をした後の、さらにメールの相談にはつながっていないという状況が、今のところあるといったところでございまして。これは、今OVAさんというところに委託してやっている事業ではござ

いますが、そちらの法人とまた相談しながら、こういった取組が効果的なのか、こういった対応が今後できるのかというのは、事務局のほうとしても考えていきたいと思っております。

ちょっと話は戻りまして、今回いただいた意見ですね。私も、当事者の方の意見というのは、特に当事者の方が意見を言われるというのは、すごく勇気が要ることかなというふうに思っております。その勇気を振り絞って出していただいたお話、リカバリーストーリーとか、そういったものをお話しいただくことによって、また精神障害を抱えている方、精神に課題のある方ですね。そういった方の勇気づけになるのかなと。それによって支えられた人が、また支えられて復活したら、そこでまたさらにそういったお話ををしていただくと、どんどん広がっていく取組なのかなというふうに思っているところでございますので、そういった活動ですね。これからも事務局としてはサポートしていきたいというふうに考えておりますし、医療従事者の方というのが、なかなか当事者の方がどういう活動をしているのかというところが分からないというお話もあったので、そういった方たちについても、どういふふうに周知啓発できるのかというところを考えていきたいなというふうに思っているところでございます。

今回いただいたご意見を基に、ピアイベントをはじめとした「にも包括」構築に向けた取組について、進めさせていただきたいというふうに事務局では考えております。様々なご意見をいただきまして、どうもありがとうございました。

守谷会長：コメントありがとうございました。

私も、何回か会長をやり、今回コア会議に出て、それからこの会議に出て、かなり進歩したなという印象は、しっかりあります。これをベースに、これからも一步一步、いい方向に結びつけていただければ幸いです。

これで全ての議事を終えましたので、令和6年度第1回文京区地域精神保健福祉連絡協議会は、これをもちまして終了とさせていただきます。

以上